

令和 5 年度 第 4 回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録

■日 時:令和 6 年 3 月 12 日(火)18時 00分～

■会 場:オンライン(Zoom)

1. 報 告 事 項

- (1) 業務報告(令和 6 年 1 月・2 月)について【資料 1、2、3】
- (2) 業務予定(令和 6 年 3 月・4 月)について【資料 4】
- (3) 「災害ボランティアスタッフ養成講習会」について【資料 5】

○事務局より、(1)～(3)について資料を用い説明を行った。

2. 審 議 事 項

- (1) 令和 5 年度第 3 回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録(未定稿)について【資料 6】

3. 協 議 事 項

- (1) 令和 6 年度予算・事業計画について【資料なし】

【事 務 局】第 2 回運営委員会で協議したものを市に提出した。変更がないため計画に従って行っていく。

- (2) 第 3 回運営委員会での意見から見えてきたこと【資料 7】

【事 務 局】前回の運営委員会で西東京ボランティア・市民活動センターの役割りと目指すことを委員の皆さんと共有した。それを基に【資料 7】を作成した。資料を用い説明を行った。

- (3) 具体的な取り組みの案【資料 8】

【委 員 長】【資料 7】を基に前回の会議の中で出された意見を踏まえ、例として学校との連携の取り組みについて意見をいただきたい。

【事 務 局】具体的な取り組みの案の一つとして学校との連携を取り上げてみた。学生をターゲットにした場合、大学生には何をやってもらったら良いのだろうか。ボラセンは大学生が地域に出るために社会福祉協議会の「ふれあいのまちづくり住民懇談会」という、住民が主体となり世話人を中心に地域活動を行っている団体との仲介を行う。例えば、月 1 回の清掃活動を行っている地区があるが高齢化している。そこに大学生が入って地域住民と一緒に計画し活動すると世代間交流も図れるのではないかと。そして高校生、中学生に対してはそこに参加してもらえるように学校から声掛けをしてもらう。高校生、中学生、小学生はそれぞれできること、やりたいことに合わせ参加してもらう。気軽に参加ができ、やりがいを実感できること、参加証明書の発行なども考えている。参加証明書は夏ボラでも要望が多い。開催の規模や人数には拘らず最初は少人数でも良い。開催日を工夫することにより定期的に参加することができる場を確保することが大事であると考えている。意見をいただきたい。

【委 員 長】学校との連携については他のボランティアセンターでも福祉教育などで主に小学校に入る機会はある。中学・高校ではボランティア部や JRC 部(青少年赤十字)などの部活動や災害や防災の授業で関わっていると聞いている。参加証明書については夏ボラで発行しているところもある。単位制の都立高校の中には証明書があると単位がもらえる学校もあるため、証明書がもらえるボランティアの紹介を求められることがある。参加証明書の発行は今後必要となってくるのではないかと。

【委 員 長】委員の中で参加証明書を発行した経験のある施設・団体はあるか。

- 【委員】私の施設では無いが、他の高齢者施設では参加証明書ではなく 1 年、5 年表彰を行っていたり広報紙に写真や名前を掲載し感謝の言葉を述べているのを見たことがある。
- 【委員長】保育園はどうか。
- 【委員】今までは求められたことも発行したこともない。やりがいの面で参加証明書が第一と考える人もいれば今後は用意する必要があるのかもしれない。
- 【委員長】障害者施設はどうか。
- 【委員】障害福祉を学んでいる大学生に独自の証明書を出したことがある。ボランティア活動に意義を持って参加される方もいるが、証明書のあるなしに関わらず卒業後の進路に合わせ在学中にボランティアを経験し知識を得て将来に備える学生が多かった。オフィシャルではないが出した意味はあったのではないか。
- 【委員長】仕事につながる学びのための参加が多いということか。
- 【副委員長】大学の社会福祉士の養成の実習で多くの学生が行く。それ以外でもフィールド実習という形でボランティアやアルバイトなどで蓄積したものを学びの成果としている。学生が何処で何をするのかと考えた時にニーズが生まれる。学校や自宅の近くで活動する方が成果をまとめやすいというメリットがあるのではないか。大学が市内にある結びつきから学ぶメリットがある。ただボランティアを受けるという関係ではなくお互いに良いところを取り合う関係が出来たら良いのではないか。
- 【委員長】レスキューバードはどうか。
- 【委員】毎年夏ボラに小・中学生が 2〜3 名参加しているが証明書の発行はしていない。参加者には最後に何を学べたか、ボランティアについての感想などを発表してもらっている。
- 【委員長】大学はどうか。
- 【副委員長】大学生の場合、証明書を提示すると何か特典が得られたりするとモチベーションが上がるかもしれない。商工会などを巻き込みながら地域活性に動くきっかけになるのではないか。先ほどの具体例で地域清掃が出ていたが、大学生はその活動で完結するというより活動にどんな意味があるのか、何処につながるのかなど探究心が掘り下げられることにより興味関心が深まるのではないか。入り口が地域清掃であっても、その活動をすることにより次の活動の何につながるのか、またその活動によって他の団体の何かのメリットになり団体の活動が活性化していくのであれば、定期的に地域に出るきっかけを連続的に作り出せるのではないか。実践だけではなく学びとして先の見通しを立てたり、疑問を持って学びのヒントにしていくなど仕掛けが出来ると地域に出やすくなるのではないか。物で承認欲求を満たすのではなく知的好奇心をくすぐるベクトルも大学生には必要となるのではないか。
- 【委員長】単なるマンパワーではマンネリ化してしまい次につながらない。きっかけは何であれそこから魅力を感じ自分の学びにつながっていくようなボランティア活動を中間支援組織としてボラセンはつながりや仕組みを作っていくなくてはならない。夏ボラのリピート率を教えて欲しい。
- 【事務局】小学生だった数人の子どもたちが進学しても繰り返し来ている。夏ボラを楽しみにしてくれている。大学生になり、ホームページのボランティア募集を見て参加してくれたこともある。
- 【委員長】継続的な学びにつながっているということはボラセンとしてやりがいがあるのではないか。
- 【委員】傾聴活動を行っている。傾聴サロンに年に 2 回ほど大学生が来てくれる。普段は同年代のボランティアが話を聴くが、若い人が来てくれると高齢者は喜んで話をしてくれる。参加してくれる学生は海外からの留学生で福祉を学んでいる。学生にとっても高齢者に接する良い機会である。定期的に来てくれると良い。
- 【委員長】相互に学びがあるのが分かった。ボラセンがさらにコーディネートできると良い。参加証明書については今後検討しても良いのではないか。
- 【事務局】参加証明書については以前から要望はあったがボラセンからは出していなかった。出せなかった理由として参加者全員の活動状況が把握できないところにある。ボラセンでは出せないが体験先の団体や施設で出せるところにお願いしていた。ずっと前には、ボランティア活動は自発的な活動で見返りを求めるのはどうなのかと議論したことがある。時代が変わり何らかのメリットは必要なのかもしれない。

- 【委員】今の時代、大学の AO 入試や推薦にも影響が出る場合もあると聞いている。ボランティア活動に参加したことを PR したいのではないかな。逆にボランティア証明書があることによってその後のつながり作りとか、レポートを提出してもらい発行するなどの方法もあるのではないかな。
- 【事務局】今年度の夏ボラから発行できるように考えていきたい。現状、体験後にアンケートの協力をお願いしているが提出が少ない。提出してくれた方に発行するという仕掛けがあれば増えるのではないかな。
- 【委員長】参加証明書が一つのきっかけにもなる。その後のつながりを考えると必要かもしれない。
- 【事務局】夏ボラが終了したら終わりではなく継続的な活動につながるかもしれないと感じた。
- 【理事】子育てフェスタなどでも中・高校生のボランティアに証明書を出しているがとても喜んでくれる。団体としても感謝の気持ちを伝えられる。また、大学生が自らの学びになるというのも良い視点である。市民団体のメンバーが高齢化でパソコンが難しいときに若い人たちに支援してもらえたら良い。大学生の得意な分野をマッチングすることにより良い出会いのきっかけとなり、その中からボランティアや社会のリーダーが誕生してくれると良いのではないかな。子どもの時からボランティアを通して人の役に立つ経験や喜びが培われていくと社会全体が良くなっていくのではないかな。
- 【事務局】委員の皆さんから肯定的な意見をいただき、今まで躊躇していた課題がクリアとなり中間支援組織としての業務改善につながる大きな気付きになった。
- 【副委員長】議論の発端は学校との協働だったが、夏ボラのリピーターの定着性や連続性、活動の興味関心をどのように深めていくか、参加証明書でどう承認していくのか。ボラセンがいきなり学校に入っていくことはハードルが高いと考えると、夏ボラはこちらが入りたいと思っている方面から来てくれ、その人たちがリピーターしてやりがいを持って活動し蓄積されることは、学校周辺の人たちがボランティアに従事していることになるのではないかな。その実績を持って学校に行けば入りやすいのではないかな。
- 【委員長】夏ボラは学校を通して参加しているわけではなく、個人や部活での参加なのでその実績を学校へ報告することにより学校との協働につながる強みになる。
- 【事務局】まさにその通りだと思う。リピーターの定着や興味関心を深めることが今までは出来ていなかった。まずは夏ボラの活動だけで途切れさせることなく行っていきたい。夏ボラに参加する小学生は純粋にやってみたいことで選んでいる。中・高校生は単位に関係するものを選び、大学生は将来自分が進む道が決まっていないから様々な分野を希望する人が多い。年代によりアプローチの仕方が変わってくるのではないかな。
- 【委員長】マッチングする上でコーディネートは中間支援組織として腕の見せどころではないかな。リピートしてくれる子どもたちを手放さないようボラセンに近づけて理解してもらい、喜びや学びをフィードバックできるようにしてもらいたい。それが生きがい、やりがいにもつながるのではないかな。

4. そ の 他

(1) 次回 運営委員会日程について

■日時： 5 月 21 日（火） 18 :00

■会場:Zoom

(2) そ の 他

配布資料

- 資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告（令和 6 年 1 月・2 月）
資料 2：ボランティアコーディネート状況月次報告（令和 6 年 3・4 月）
資料 3：ボランティアコーディネート実績表
資料 4：西東京ボランティア・市民活動センター事業業務予定（令和 6 年 3 月・4 月）
資料 5：災害ボランティアスタッフ養成講習会について 報告
資料 6：令和 5 年度第 2 回運営委員会要点記録(未定稿)
資料 7：西東京ボラセンの役割とめざすこと(継続検討事項)
資料 8：具体的な取り組みの案
参考：ぼらんていあ倶楽部第 125 号（令和 6 年 2 月 15 日発行）